

そのとき、あなたはどようする？ 緊急地震速報利用の心得

緊急地震速報は、震度5弱以上であるときに発表され、震度4以上が予想される地域に対して到達時刻や震度を可能な限り素早く発表し、もうすぐ強く揺れることを知らせてくれるものです。テレビ、ラジオ、防災行政無線や携帯電話などで報知音が鳴ります。

緊急地震速報伝達訓練を行います

と き 7月5日(木) 午前10時ごろ
と ころ 市内全域
訓練内容 防災行政無線から放送します。なお、防災行政放送は防災ラジオへ配信するほか、とばメールでも配信します。(訓練終了の放送はありません)

- ❗ 地震の揺れを感じたら…
- ❗ 緊急地震速報を見聞きしたら…

**慌てず、まず
身の安全の確保を!!**

家庭では

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する。
- 慌てて外へ飛び出さない。
- 無理に火を消そうとしない。



鉄道・バスでは

- つり革、手すりにしっかりとつかまる。



自動車運転中は

- 慌ててスピードを落とさない。
- ハザードランプを点灯し周りの車に注意を促す。
- 急ブレーキはかけず、緩やかに速度を落とす。



エレベーターでは

- 最寄りの階に停止させすぐ降りる。



屋外(街)では

- ブロック塀の倒壊に注意。
- 看板や割れたガラスの落下に注意。



人が大勢いる施設では

- 係員の指示に従う。
- 慌てて出口に走りださない。



周囲の状況により具体的な行動は異なります。日頃から、いざというときの行動を考えておきましょう。

晩婚化により出産年齢が高齢化し、親の介護と子育てを同時にしなければならぬ、いわゆるダブルケア問題が表面化してきています。

内閣府が実施した「育児と介護のダブルケアの実態に関する調査平成28年」によると、ダブルケアを行っているかたは、全国に約25万人いると推定されています。男女別に見ると、女性が約17万人、男性が約8万人で、女性のかたが多いことが分かります。

また、ダブルケアを行うかたのうち、男性は9割以上、女性は約半数が仕事を持っており、ダブルケアが就業に与えた影響についての調査結果では、業務量や労働時間を変えなくて済んだかたの割合は男性で48%、女性は30%だったことに對し、業務量や労働時間を減らしたかたの割合は、男性で約18%、女性は倍以上の約38%であることが分

かりました。さらにそのうち、離職して無職になったというかたは、男性で2.6%、女性が17.5%と、ここでも女性がより大きな影響を受けていることが分かります。

ダブルケアを行う世代は、働き盛りの30歳から40歳代が最も多く、離職すると経済的な不安を抱えることや、キャリアが中断するなど、生活に大きな影響を与えます。

今後、このダブルケアに直面する可能性のある人は、増加するといわれています。このような状況の中、働き続けることを望むかたが仕事を離職することなく、育児や介護ができるよう、職場の労働環境を整備していくとともに、官民を問わないサポート体制の構築が必要です。このほか、家庭でも性別などに関わらず役割分担を行い、家族間で負担軽減を図っていくことも大切です。

一人一人が備えてこい！
防災力UP！鳥羽

総務課防災危機管理室

☎ (25) 1118

vol.61



イコール
パートナー
シップ

Vol.130



育児+介護
=ダブルケア

市民課人権・生活係

☎ (25) 1126